

**平成31年度**  
**劇場・音楽堂等機能強化推進事業**  
**(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)**  
**成果報告書**

団体名	公益財団法人宮崎県立芸術劇場	
施設名	宮崎県立芸術劇場	
助成対象活動名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	26,205	(千円)
公演事業	15,713	(千円)
人材養成事業	6,217	(千円)
普及啓発事業	4,275	(千円)

## 1. 事業概要

### (1) 平成31年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	シリーズくなるほどクラシックコンサート vol. 8 「街角物語」	令和元年9月14日、15日	3公演実施 出演者：神山一朗、黒木岩寿、白濱櫻子、本田奈留美、桐原直子 曲目：月の光、パッカサリア 他	目標値	620
		イベントホール、延岡総合文化センター 小ホール		実績値	398
2	鈴木大介×伊藤ゴロー 「ギター・デュオで聴く 映画音楽の世界」	令和元年10月19日	出演：鈴木大介、伊藤ゴロー 曲目：ニュー・シネマ・パラダイス、 サウンド・オブ・サイレンス 他	目標値	240
		イベントホール		実績値	218
3	あそびのぼうけんフェスティバル	令和元年11月9日、10日	出演：チリンとドロン、ロバート・ バーロー、ロバの音楽座	目標値	480
		練習室、イベントホール		実績値	399
4	ブエノス・アイレス・レポート	令和元年11月16日	出演：パブロ・シーグレル、北村聰、 鬼怒無月、西嶋徹、ヤヒロトモヒロ	目標値	480
		演劇ホール		実績値	477
5	チェコ少年合唱団“ボニ・ブエリ” 「クリスマス・コンサート」	令和元年12月8日	出演：チェコ少年合唱団“ボニ・ブエリ”、宮崎市内小学校合唱部（4 校）	目標値	650
		アイザックスターンホール		実績値	607
6	オルガンとその仲間たち シリーズ 2019	令和2年1月13日	曲目：ヴィヴェルディ「グローリア」 他 企画・監修・指揮・オルガン・チェンバロ：大塚直哉 出演：桐山建志、 大西律子、西沢央子 他	目標値	400
		アイザックスターンホール		実績値	457
7	ベルリン・フィルハーモニー ピアノ四重奏団	令和2年1月23日	出演：ルイス・エスナオラ、マシュー・ハンター、クヌート・ウェーバー、マルクス・グロー	目標値	435
		アイザックスターンホール		実績値	447
8	ピアノの巨人たちの肖像 「ショパン vs リスト」	令和2年2月2日	出演：金子三勇士、浦久俊彦 曲目：英雄ポロネーズ、コンソレーション第3番 他	目標値	500
		演劇ホール		実績値	753
9	「新 かぼちゃといもがら物語」 #4	令和2年2月26日 ～3月1日	演目：『幻視～神の住む町』 作： シライケイタ 演出：立山ひろみ 出演：東風万智子、駒木根隆介 他	目標値	700
		イベントホール		実績値	436
10	パイプオルガン プロムナード・コンサート 土曜の朝はオルガンでブランチを・・・「オルブラ」	令和元年7月13日、 9月21日、12月21日	出演：三上郁代（7月）、渋澤久美（9月）、福本茉莉（12月） 司会： 伊豆謡子	目標値	750
		アイザックスターンホール		実績値	473
11	おんがくのおもちゃ箱 シリーズ Part. 9／Part. 10	令和元年7月20日、 令和2年2月8日	出演：衛藤和洋、大西映光、黒木奈津季、(7月ゲスト) 村上由宇月、(2 月ゲスト) 古賀鈴子 司会：伊豆謡子	目標値	1,200
		アイザックスターンホール、 演劇ホール		実績値	1,442

## (2) 平成31年度実施事業一覧【人材養成事業】

### (3) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			
1	ニグリノーダ『赤桃』	令和元年6月22日、23日	作・演出：立山ひろみ 作曲・演奏：高橋牧 振付・出演：福留麻里 舞台監督・出演：河内哲二郎 出演：五島真澄	目標値	160
		練習室、えびの市文化センター 大研修室		実績値	174
2	Let's 和の音♪	令和元年8月9日、10日	講師・出演：花岡操聖、内藤美和、日高聰子、上原潤之助、山中信人、廣原武美、川村葵山、樋口景山、他	目標値	290
		アイザックスターンホール		実績値	340
3	はじめてのクラシック♪	令和元年4月17日、7月10日、10月9日、令和2年1月8日、2月29日	出演：(第1回) 熊谷愛香、野崎さやか、(第2回) 高場涼子、(第3回) 日高由美子、河内朋子、(第4回) 壽山智美、本田奈留美、(第5回) 熊谷愛香、野崎さやか	目標値	320
		練習室、西都市民会館		実績値	301
4	演劇ワークショップ 「アートな学び舎」	令和元年6月16日～11月22日	全体監修・講師：立山ひろみ 講師：岩切正一郎、井手茂太、JOU、アンドレ・ヴァン・レンズバーグ 他	目標値	70
		和室、練習室、高千穂町武道館 弓道場		実績値	132
5	音楽アウトリーチ 「ミュージック・シェアリング」	令和元年6月6日～令和2年2月14日	19会場23公演実施 指導：桐原直子、児玉真	目標値	1,250
		県内幼稚園、小中学校等	出演：田島千愛、片野郁子、高場涼子、野崎さやか、熊谷愛香、壽山智美、河内朋子	実績値	1,091
6	演劇アウトリーチ 「けんげきくんがゆく！」	令和元年6月18日～12月18日	9校実施 演目①：「うさぎとかめ」構成・演出：立山ひろみ	目標値	320
		県内小学校	演目②：「どんぐりと山猫」構成・演出：永山智行	実績値	428
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
<p>宮崎県立芸術劇場は、県民文化の拠点として、舞台芸術を中心とした多様な文化活動を促進し、文化の香り高い地域づくりと心豊かな県民生活の創造に寄与することを目的に平成5年に設置された。平成18年度より当財団が指定管理業務を受託し、管理運営にあたっている。</p> <p>事業実施に際しては、「第三期（平成28年～令和2年）指定管理申請書」（平成27年8月提出）、及び「みやざき文化振興ビジョン（改訂版）」（平成29年7月）に基づき、県民の「みる」「つくる」「つながる」の3つの拠点となることを目指している。</p> <p>●舞台芸術の拠点形成 「みる」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ホールの特性を最大限に活かした当劇場だからこそできる公演による、県内外からの来場者増</li><li>・感受性豊かな子どもたちに良質な舞台芸術に触れる機会を提供</li></ul> <p>●文化創造の拠点形成 「つくる」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・宮崎の地域資源、人材を活用した宮崎オリジナルの舞台公演を創造し、「宮崎の今」を発信</li><li>・宮崎で活動している表現者に活躍の場を提供し、その活動を支援</li><li>・子どもたちの想像力を育み、本県の未来を担う心豊かな人材を育成</li></ul> <p>●地域文化の拠点形成 「つながる」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・県内各地域へ舞台芸術を届け、県内他施設と連携して地域の文化力向上を支援</li><li>・県内の表現者を起用することによる舞台芸術への親近感の醸成</li></ul> <p>上記の方針に基づき、事業を組み立て、当初の予定通りに進めることができたが、人材養成事業のうち令和2年3月14日～22日で予定していた「第13回ミュージック・アカデミー in みやざき2020」については、参加者のほとんどが小・中・高・大学生であったことから、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。</p>
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
<p>平成28年に、県の文化振興に関する基本的計画「みやざき文化振興ビジョン」の改定にあたって行った調査（調査対象20歳以上の県民3,000人（男女各1,500人）を無作為に抽出）によると、「県民が文化に親しめるために必要なこと」という質問について、第1位が「子どもが文化に親しむ機会の充実」、第2位が「公演などの文化事業の充実」となっている。また、「県立芸術劇場に来館しやすくするための取組について」という質問では、「テレビや新聞、インターネットなどで情報をわかりやすく提供する」「入場料を安くする」「有名な演奏家や劇団等を招へいする」が上位の回答となっている。</p> <p>これら県民の要望に応えるためにも、当劇場が良質な舞台公演や親子で楽しめる公演の鑑賞機会や、舞台芸術を体験する機会を継続的に提供し、文化事業を充実させていかなければならない。</p> <p>また、令和2年に本県で開催される「第35回国民文化祭・みやざき2020、第20回全国障害者芸術・文化祭みやざき大会」における中核的役割を果たすこと、また、大会終了後の県民の文化意識の高まりを牽引し続けていくことが求められている。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

当劇場においては、(1) 公演来場者へのアンケート と (2) 公演担当者による事業終了後の自己分析 の2つの方法により、事業効果を測定している。

#### (1) 公演来場者へのアンケート

事業毎にアンケート調査（回収率 38%）を実施し、来場者の動向、満足度等を計り、次年度の目標としている。アンケート調査の主な調査項目の実績値の推移は下記のとおり。また、平成 30 年度で若干落ち込んでいた入場率は、平成 31 年度には平成 29 年度実績までには上向いてきている。

入場率	H29 年度…69.4%	H30 年度…61.2%	H31 年度…68.5%
男女比	H29 年度…29.3%:70.7%	H30 年度…28.9%:71.1%	H31 年度…28.8%:71.2%
満足度	H29 年度…79.9%	H30 年度…83.2%	H31 年度…84.5%
年代別 (H31 年度実績)	60 歳代…23%	40 歳代…18%	30 歳代…17%
	20 歳代以下…13%	70 歳代以上…12%	無回答…2%
		50 歳代…15%	

来館状況では「年 1~2 回」「年 3~5 回」合わせて 66% なっている。一方「初めて」は 6.5% となっているため、次年度は、「初めて」の割合を 10% とすることを目標とする。

#### (2) 事業担当者による自己分析

事業終了後に企画、広報の各担当者により、次の指標について取りまとめ、振り返りを行う。

実現性、公益性、共感性、普及性、先駆性、計画性、自立性

→ 各公演とも 「達成できた」「ほぼ達成できた」の自己評価

広報の成果 … 共時性、通事性、新規性、効果性

→ 目標入場者に達していない公演もあったが、チラシの配布計画の見直しが観客増につながった公演もあり、今後も広報計画を見直していくことで効果的な広報を展開していく。

発表公演を伴う人材養成事業においては、来場者アンケートの“劇場への来館回数”の質問項目で「初めて」の割合が 25% なっている。これは出演者からの案内により来場したためと思われるが、この結果から、当劇場が実施する人材養成事業においては、事業参加者のスキルアップという目標だけでなく、観客の裾野を広げるという目標にも有効であることが伺える。

### (3) 効率性

自己評価
アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。
平成31年度は、当初予算に対し、大幅な支出増となることもなく、概ね計画通りに事業を遂行することができた。一部、目標としていた収入に達していない公演もあったが、その分支出を押さえる、もしくは事業全体の中で支出額の調整を行うことで、全体の収支バランスの維持に努めた。特に、事業費の中で大きなウェイトを占める交通費に関しては、移動スケジュールを早めに確定させ、より割引率の高い航空券を購入したことで、支出の縮減を図ることができた。
事業期間についても同様に計画通りに進めることができた。県民参加型の事業（トライアル・シアター2019、オルガンとその仲間たちシリーズ）については、公演に向け十分な練習期間を確保するために事業期間を長く設定しているが、そのことにより作品の質、参加者の満足度、共に高いものとなっており、参加者のその後の活動へと繋ぐことができている。
しかし、令和2年2月末以降は新型コロナウイルス感染症の影響により、計画の変更を余儀なくされた。
<b>【収入減となった事業】</b>
以下2事業についてはチケットの買い控え、予約のキャンセルが相次ぎ、目標の5割程度の入場者数となった。
・「新 かぼちゃといもがら物語」#4『幻視～神の住む町』(2月26日～3月1日 5公演)
・はじめてのクラシック in 西都 (2月29日)
<b>【中止した事業】</b>
以下の2事業については、感染拡大防止の観点から、事業を中止した。
・アートな学び舎「ぶっちゃけ演出論」(3月6日)
・第13回ミュージック・アカデミー in みやざき 2020 (3月14日～22日)

## (4) 創造性

自己評価
地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。
<p>当劇場が実施する事業プログラムには、「県の芸術文化の拠点」としての高い芸術性が求められることから、劇場スタッフに加え、長年にわたり宮崎県の音楽界を牽引してきた桐原直子氏に音楽事業アドバイザーを、宮崎出身で東京を拠点に演出家として活躍する立山ひろみ氏に演劇ディレクターを委嘱し、より専門的な見地から企画、運営に当たっての指導、助言をもらっている。</p> <p>また、NHK エンタープライズと事業アドバイザー契約を結んでおり、ジャンルを超えた幅広い見地から、高い芸術性と県民からの親しみやすさを両立させるための企画への助言等を得ている。</p> <p>当劇場は「コンサートホール」「演劇ホール」「イベントホール」の3つのホールを有し、それぞれのホール特性を最大限に活かした事業を行っている。中でもコンサートホールの音響性能の良さは、国内外の第一線の音楽家からも高い評価を受けており、迫力あるオーケストラから繊細な表現の室内楽の公演まで、優れた鑑賞環境の中で提供することができている。</p> <p>また、コンサートホールに設置された国産最大級を誇るパイプオルガンを活用するため、オルガン・チェンバロ奏者で東京藝術大学教授の大塚直哉氏にオルガン事業アドバイザーを委嘱し、事業の企画、運営についての助言をもらっている。</p>
<p>以下、特に創造的、独創的と認められる事業例</p> <p>（1）公演事業</p> <p>① 「新 かぼちゃといもがら物語」#4 『幻視～神の住む町』</p> <p>地域社会に凝縮されている社会課題を背景に、宮崎に生きる人々の営みを描いた演劇の自主創作公演。土田英生氏、長田育恵氏、戌井昭人氏に続く第4作の作家は、第25回読売演劇大賞において杉村春子賞を受賞したシライケイタ氏。出演に数々の映像作品に出演する東風万智子氏、駒木根隆介氏ほかを迎えた。また美術プランナーは、第25回読売演劇大賞最優秀スタッフ賞を受賞した土岐研一氏をシリーズ第1作から起用。演出は立山ひろみ演劇ディレクター。</p> <p>② あそびのぼうけんフェスティバル</p> <p>音楽と絵とダンスから「あそび」が生まれる瞬間を体験するWS「あそびの教室」、赤ちゃんのための「チリンとドロンのコンサート」、ロバート・バーローとロバの音楽座による「あそびのぼうけんコンサート」から成る“あそびをテーマにしたフェスティバル”を開催。劇場への来館が初めてという親子連れが多数来場した。</p> <p>（2）人材養成事業</p> <p>① トライアル・シアター2019</p> <p>国内第一線のアーティストと公募で選ばれた県民が、約1週間で舞台作品を創作するシリーズ。平成31年度は構成・演出・音楽にパーカッショニストの関根真理氏を迎え、中島らもの遺した言葉から“テキスト×音楽”による新たな舞台作品を創作した。</p> <p>（3）普及啓発事業</p> <p>①はじめてのクラシック♪</p> <p>平成31年度から始めた、親子でクラシック音楽を楽しめるコンサートシリーズ。0歳から入場でき、平日の午前中に約40分という短い時間でプログラムを構成。演奏家には、当劇場のアウトリーチ登録アーティストを起用し、お話しも交えながらリラックスして楽しめる内容となった。年4回の計画だったが、毎回即完売となる人気シリーズとなり、急遽、劇場が立地する宮崎市以外の会場でも実施することとなった。</p>

自己評価
地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。
<p>公演事業のうち「なるほどクラシックコンサート」「オルガンとその仲間たちシリーズ 2019」「新 かぼちゃといもがら物語 #4」においては、出演者の一部に県内で活動する演奏家、俳優を起用している。国内の第一線で活躍する演奏家等と共演することにより、演奏技術や演技技術の向上が図られ、地域での文化芸術活動の発展にもつながっている。また、教育普及事業のアウトリーチ事業では、音楽・演劇ともに地元のアーティストを起用して実施している。</p> <p>これら県内の芸術家は、令和 2 年度に本県で開催される「国文祭・芸文祭みやざき 2020」においても中心的な役割を果たすことから、彼ら、彼らを通じて県内の文化芸術活動の活性化とレベルの向上が期待される。更には、県内出演者の存在が、県民とコンサートや演劇との間の距離感を縮めることにも作用しており、観客増も図られている。</p> <p>人材養成事業「トライアル・シアター2019」や、教育普及事業の各講座やワークショップ参加者の中からも、県内で文化芸術活動の中核を担う人材や、将来的に活動を行っていくための専門的知識の習得に努める人材が育ってきており、これらの事業が地域の文化芸術の振興の一翼を担っている。</p>

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

宮崎県立芸術劇場が宮崎県の芸術文化の拠点として持続的に発展していくために、次のような人事戦略、経営戦略の基で事業を運営している。

#### ●専門スタッフの確保と育成

当劇場では、毎年職員全員が参加する研修会等を4~5回実施している。平成31年度は、財団の経営状況についての勉強会、行政機関から講師を招いての人権研修、視覚障がい者・聴覚障がい者が参加した避難訓練等を実施。併せて、各種団体が実施するアートマネジメント研修会や公益法人会計の研修会への参加、先進施設への視察研修を行った。これらを通して、劇場スタッフに必要な知識と専門スキルの向上を図り、企画制作、舞台技術、経理等の高い専門性と、劇場運営への広い視野を併せ持つ人材を育成している。

また、新規採用と人事制度（異動と昇格）で人材の確保とその能力・意欲の向上を図り、将来的に財団運営を担える人材の育成に努めている。

30年度からは無期雇用へと順次移行し、職員が長期的なキャリアプランを持てるようにした。

#### ●自主財源の確保

当劇場の運営財源は、設置者である宮崎県からの指定管理料が約65%を占めているが、安定的な運営のためには協賛金等の自主財源も確保しなければならない。

子どもたちに良質な舞台作品を提供する公演や、宮崎を題材とした演劇の自主制作公演への協賛、オーケストラ公演への冠協賛等、企業・団体のCSR活動に資するような公演では、その趣旨を積極的に提案し、継続して支援を得られるよう努めていく。

施設使用料収入は、平成28年度を100とした場合、29年度は102、30年度は108と順調に推移していたが、平成31年度は新型コロナウイルス感染症によるキャンセルにより、前年比1割減となってしまった。

劇場友の会の会員数は、概ね1,500名で推移。話題性のある人気公演を定期的に企画することで新規入会、及び既存会員の継続の動機付けとし、会員数の維持、拡大を図っている。

補助金・助成金では、文化庁文化芸術振興費補助金のほか、(一財)地域創造からの助成金を連続して獲得しているが、引き続き補助金等が得られるよう、採択時の評価点を基に事業内容や収支予算を検証・改善していくこととしている。